

徳島県総合計画審議会 会議録

I 日時 平成26年11月 4 日（火） 午後 1 時～午後 3 時

II 会場 県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】40名中 25名出席

近藤光男会長、金貞均副会長、中央子副会長、阿川利量委員、伊藤晴夫委員、上田加代委員、岡田好二委員、岡本富治委員、川眞田彩委員、清田麻利子委員、日下正幸委員、久米清美委員、近藤宏章委員、近藤洋祐委員、高橋啓子委員、近森由記子委員、内藤佐和子委員、野口優子委員、林明実委員、分木秀樹委員、松崎美穂子委員、真鍋恵美子委員、山中英生委員、山本紘一委員、綿谷春代委員

【 県 】

知事、政策創造部長、各部副部長 ほか

IV 議題

- 1 新たな総合計画「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」の骨子案について
- 2 その他

《配布資料》

資料 1 新たな総合計画「長期ビジョン編」骨子案

資料 2 新たな総合計画「中期プラン編」骨子案

資料 3 県民等からの意見聴取結果

参考資料 1 新たな総合計画の策定方針

参考資料 2 新・総合計画策定スケジュール

参考資料 3 人口推計資料

参考資料 4 地方創生に係る国・県の動き

参考資料 5 v s 東京（共通コンセプト）

V 会議録

- 1 新たな総合計画「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」の骨子案について

近藤宏章部会長から「宝の島・とくしま創造部会」での審議内容について、資料 1 から 3 及び

参考資料１・２に基づき報告があった。

続いて、事務局より「新たな総合計画『長期ビジョン編』及び『中期プラン編』の骨子案」について、資料１から３及び参考資料１から５に基づき説明があった後、意見交換が行われた。

(岡田委員)

徳島県自主防災組織連絡会会長の岡田でございます。よろしくお願いします。ただ今から申し上げる意見は、もちろん自主防災と関係ありますが、特にそれにこだわっておりません。

私は、昭和20年４月８日、牟岐国民学校１年生に入学をいたしました。当時は戦争中でありました。ところが入学して間もなく、８月６日に広島に、８月９日に長崎に原子爆弾が落とされ、沖縄はもちろんやられ、日本全国で300万人以上の方が亡くなり、牟岐町でも600名の若い命を失いました。

ところがそれから１年４カ月経った昭和21年12月21日の午前４時19分、南海地震によりまして、私の家は流され、牟岐町で53名の方が亡くなりました。

当然その当時は日本はアメリカに占領されておりまして、私たち家が流された者は、ミカンの缶詰と乾パンぐらいしかもらわなかった。もちろん国の補助も住宅ローンもあるわけではありません。が、私たちの両親をはじめ、当時の人々は戦争で焼け野原にされ、また津波で大きな被害を受けたにも拘わらず、瓦礫の撤去は住民総意で撤去して、その流された後に家を建てました。

その後私も、現在のところに家を鉄筋コンクリートで建てておりますが、次の津波には流されることは覚悟で建てています。しかし鉄筋で建てると中だけは残るだろうということで、このように当時の人は非常にポジティブであったといえはいえますけど、他に頼るところがないので、自分の事は自分でしなければならないということで、その後すぐに船を直して漁にでました。

ところが、当時は戦争で長い間漁を休んでおったために、大変たくさんの魚が捕れました。その後東京オリンピックへと入りました。そうすると牟岐町で捕れるハモであるとか、アワビであるとかイセエビ、大変高い値で売れまして、牟岐町が大発展しました。その中で最も高いマグロは牟岐町では捕れません。しかし、当時の神奈川県の大磯の遠洋マグロ漁業の基地の遠洋航海の船主は、大半が牟岐町の人でありました。

知事さんもお承知のフラメンコの小島章司さん、あのお父さんは外国へ、インド洋へ船を出した人です。それで小島章司君も世界へ出ていったわけで、こういうことで私たちはどん底から今日まで這い上がってきました。

この総合計画を見ると、どうもネガティブから始まっていると思うので、今考えましたように、日本全土が焼け野原になって、更に津波で流されて、それで私も兄弟が７人いたので、大きくなっても徳島県の相撲のチャンピオンだったんですけど、大学へは貧乏で行けませんでした。

しかし、私は自分の代になって56歳で自分の力で近畿大学へ行って法学部を卒業して現在もいろいろな役をしています。そういうことで、自分の与えられた地位が最低であっても努力をすれば何とか

なるということを皆さま方にお伝えいたし、また私は健康管理のために、元々相撲部のキャプテンでありながら、65歳で定年になりました。

知事さんにも応援してもらったように、ハワイのホノルルマラソン、フルマラソン、ハーフマラソンを10回走りました。今現在腹も出ておりません。こういうことで、それはこんな場で言いたいことを言うから長生きをするので、どうか皆さん、ネガティブにならないように、一つお願いします。

(近藤会長)

はい、ありがとうございました。

本当に、ポジティブというのは非常に大事だと思いますので、それが溢れるように変えていただくといいかと思います。

他にどうぞ、お願いいたします。

どうぞ、久米委員、お願いいたします。

(久米委員)

障がい者の立場からご意見を申し上げたいと思いますが、先ほど事務局のほうからご説明をいただいて、ちょっといま思い浮かべたことを申し上げますので、事務局の方で整理をお願いしたいと思います。

現在徳島県におきましても高度に発展をしてきました、政治、或いは経済、科学技術、教育等々によって、いま成熟した社会が作られつつあるわけでございますが、その中で特に徳島県、長期、中期の総合計画というものが策定する中にありまして、この計画の各分野、或いは各政策を束ねていく理念というものを盛り込んでいただきたいと考える次第でございます。

それはいまの資料の中にチラッとありましたが、県民一人ひとりが希望溢れる社会を目指した徳島づくりをということでもありますので、子どもから高齢者、女性、そして我われ障がい者、いわゆる社会的弱者に対しましての基本的な人権と個人の尊厳が尊重される、そういう社会づくりという、こうしたことが計画の中の理念として貫いてほしいなと考えておるわけでございます。

それから2011年3月11日の東日本大震災の教訓から我々は多くの事を学んだわけでございます。ですから、平常時、或いは非常時を問わずこうした理念を貫き通していただきたいと、こんなふうに思っているわけでございます。

それから東日本大震災では、想定外のことが起きたわけでございます。ですから我われ災害弱者といわれております、特に障がい者は、津波からの避難、その後の避難所生活における悲惨な状況下にあったわけでもありますので、特に本県におきましては、南海トラフ巨大地震がもう想定されているわけでございますので、我われ災害弱者に対する悲惨な状況に陥らないための基本的人権と個人の尊厳が尊重される、そういったところの事前の準備というものを是非お願いしたいと思っております。

そして、以上申し上げましたことにつきましては、これを促進させるために県が現在取り組んでおられます障がい者の権利擁護条例の制定、これが確実に実現されることを、是非お願いをしておきたいと思っております。

最後に、この南海トラフの巨大地震などの災害時対策及び障がい者の雇用、就労対策等についても特段のご配慮をお願いしたいと思います。以上でございます。よろしくお願いいたします。

(近藤会長)

ありがとうございました。

それでは、次ご意見どうぞ。

(野口委員)

私から、2つのお伺いと1つの提案事項を申し上げたいと思います。

まず、最初に「女性活躍の施策について」であります。政府は女性の活力があってこそその経済成長であるとの認識のもと、女性の活躍促進策を最重要課題のひとつとして、女性活躍の施策を推進しているようでございます。徳島県におきましても、11月1日から8日までの8日間女性活躍推進フォーラムの行事を開催されているようですが、その詳細と、今後の取り組み予定をお聞かせいただければと思います。今季限りというのではなく、是非、継続事業として取り組んでいただきたいと思います。それとともに、通年開催されています、「フレアとくしま100講座」の平成26年度の事業実施状況について、現在の進捗状況をお伺いできればと思います。行動計画下巻138ページでは目標累計1,200件とありますが、現在の状況をお聞かせください。

次に、2つ目に、今後中期・長期の計画の中で徳島の活性化するための「グローバル人材の育成について」でございます。今年3月、グローバル人材の育成のために、文科省は大学生対象に民間企業にも寄付を募って運営する「官民一体」で「トビタテ！留学JAPAN」という留学支援制度を今年から実施と報道されていまして。

そこでまずその内の一つ目で、今年徳島県においても、牟岐町での英語村が今年初めて開催されたようですが、その実施状況と、今後のグローバル人材育成のための取り組みについてお話を伺えればと思います。

続きまして、グローバル人材の育成のその内の二つ目ですが、若者の留学生制度、海外派遣などを検討する機会におきまして一つだけお願い事項と申しますか、提案事項です。ここでの即答は不要でございます。すぐには結論が出ないかと思っておりますので。

今年9月、関西の私立大学にグローバル人材の育成のために国際学部新設のためのフォーラムが開催された基調講演の報道記事の中で、講演者が「家庭では多様性に慣れる環境づくりとコミュニケーション能力の育成などグローバル人材としての基礎を育成してほしい」と書かれていまして。私何か

の本で読みました。「環境は無言の教育だ」と思います。若者の海外留学海外派遣など、グローバルな視点の育成も大変重要だと思いますが、それと並行して若者を取り巻く子育て年齢層を含む「成人対象」の海外視察なども是非、ご検討願えたらと思っております。

私たち海外派遣交流会独自で主催し東南アジアなどの研修事業を行ってまいりましたが、ボランティア団体主催の研修ツアーは相手国の施設や機関との交渉については限りと申しますか状況の把握が十分ではございません。成人の海外派遣研修など今後の課題としていただけますよう提案いたします。

参考までに徳島県では1983年から2004年まで女性リーダー養成海外派遣事業があり、派遣国9か国、派遣人員233名が派遣された実績がございます。

今後、中・長期教育の中で海外派遣事業が予定されます時には、対象者を「若者」と並行して「成人（子育て年代）の研修派遣事業」もご検討いただきますよう提案いたします。以上です。

（近藤会長）

ありがとうございました。

3つほどご意見・ご質問がありました。最後の1つはご提案ということにさせていただきたいと思っております。

それでは、女性が活躍できる社会についての現状のご質問がありましたので、それとグローバル人材の育成の取り組みで、それぞれ簡単をお願いします。

（保健福祉部）

保健福祉部でございます。

私の方からは前段の「フレアとくしま100講座」の関係、或いはフォーラムの更なる展開という関係につきましてご報告をさせていただきたいと思っております。

ご質問いただきましたフレア100講座につきましては、平成19年度、フレアとくしまの開設以来、男女共同参画社会の実現に向けた普及啓発、或いは人材育成ということで開催してございまして、昨年度、平成25年度におきましては、221講座、参加数延べ1万8千人近くの方にご参加をいただいております、今年度も200講座程度を開催する予定としてございます。

延べの講座数、先ほどご質問いただきました1,200件に対しましては、25年度末現在で既に目標を達成しまして1,235件の講座を開催しているところでございます。さらにフォーラムでございますけれども、今年度、県におきましては「女性の活躍元年」と位置付けておりまして、ちょうど今開催中でございますが、この1日から8日までの間で女性の活躍推進フォーラムを開催しているところでございます。

1日には知事にも出席いただきまして、キックオフイベント、講演会もしましたし、今年度新たな取り組みとして、女性の男女共同参画の分野で活躍している皆さま方の表彰もさせていただいたとこ

ろでございまして、お話のございました、こうした男女共同参画の取り組みというのは、もちろん一過性で終わらせてはいけないということで、持続的な取り組みが必要と考えてございまして、我われとしてもそうした基本認識を持って、今後の取り組みというのを考えて参りたいと考えてございます。

(近藤会長)

ありがとうございました。

よろしいでしょうか。あと、グローバル人材について。

(教育委員会)

教育委員会でございます。

グローバル人材の育成についてでございます。ご紹介いただきましたように、本年度初めて牟岐町で「Tokushima英語村」プロジェクトを開催させていただきました。委員のご指摘のように、グローバル人材の育成については日本はもとより、本県におきましても最重要課題というふうに受け止めておりまして、今年度新たな試みとして実施したものでございます。

目的は英語のコミュニケーション能力の向上ではございますが、海外の大学生、それから国内のいろんな大学生とコミュニケーションを図る、それから社会でたくさん活躍をされている社会人の方とも交流をするといったことで、自らの将来の選択肢の幅を広げて、自らそれを選択していく契機となればということで実施をしたものでございます。

参加した高校生からは「国内外の大学生、それから社会人とお話ができて、自分の知らない世界を見ることができた」、それから「自分の中にある弱み、悩みなどの壁を壊すことができた」、など非常に前向きな評価をいただいているところでございます。

今後もグローバル人材の育成は非常に重要な課題と受け止めておりまして、こういった今年の新たな取り組みを参考にして更なるステップアップとして、次年度以降、どのような形ができるのかということを、今後前向きに検討して参りたいというふうに考えております。以上でございます。

(近藤会長)

ありがとうございました。

それでは続いて、はい、お願いします。

(綿谷委員)

野鳥の会の綿谷です。

50年後の新たな長期ビジョンと新たな中期プランの骨子は、よく分かり易くまとめられて、パッと見てよく分かりました。

資料2の表にしてある分で要望ですが、長期ビジョンの2段目の「世界に誇る『強靱なTOKUSHIMA』」の中で、一番下の「安全・安心で豊かな食文化が息づいている」というところから矢印を増やしてほしいんです。

というのは、右の方の新たな中期プランの「環境先進とくしまの創造」というところに1本、どうしてもこれを50年後目指すならば、より良き生活環境、水、空気、土、その他いろんな自然の事も含めて良くならなければ生まれてこないと思います。

それと自然との共生があつてこそ「安全・安心で豊かな食文化」、文化ですから、食べ物、産業だけでなくそれにまつわる祭りとか食への関わり方とか、そういう歴史も含まれておりますので、是非、「安全・安心で豊かな食文化が息づいている」ところから矢印を「環境先進とくしまの創造」があつてもいいのかなと。

もう1つの1本の矢は、「安全・安心で豊かな食文化が息づいている」というところから、「経済創生とくしまの創造」というところへ。特に労働雇用とか、とくしまブランド、次世代林業とも関わっているので、矢印をこの2本入れて欲しいなと思いました。

(近藤会長)

ありがとうございました。

ご提案ですが、何かございますか。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。この矢印は代表的なものをイメージして作っているところであります。確かにそれぞれからいろんな所へということがございます。食文化につきましても、地産池消ですとかそういった面で経済にも繋がってくる面もあるかと思いますし、今後素案にする中で方向性を盛り込む中でそういった観点をしっかり捉えて考えたいと思いますので、ありがとうございます。

(近藤会長)

ありがとうございました。

続きまして、よろしくお願いいたします。

はい、近森委員お願いします。

(近森委員)

徳島県青年国際交流機構の近森と申します。よろしくお願いいたします。

私の方から2点お話をさせていただきたいのですが、その前に先日、うちの団体の方で、中東のカタルとドミニカ共和国の青年を受け入れました。徳島県の方にも5日間滞在させていただきました。

その際徳島県の方にも表敬をさせていただいたのですが、玄関のロビーでたいへんたくさんの方に出迎えていただきまして、本当に青年たちも私たちも驚きと感動で印象的でありました。徳島でのおもてなしが一番だったと、私は自負しております。

1点質問ですが、先ほど若者クリエイト部会のご報告があったかと思います。私も1委員としてここに携わっています。7月にこの報告がありまして、私は残念ながら出席はできなかったのですが、長時間に及ぶ報告であったと聞いております。

先ほども事務局の方からもご説明いただいたのですが、もしお分かりになる範囲で結構ですので、具体的に今回の報告書がどのように新たな総合計画に反映されているのか、又は反映されるのかをお聞かせ願えればと思っております。

委員の方からも、どのようなフィードバックがあるかというのは、ちょっと気になるところでありますので、お分かりになる範囲で結構ですので教えていただきたいと思います。

もう1点は、私の個人的な思いであるんですが、資料3-2と3-3をご覧くださいませでしょうか。そこに、徳島県のイメージについてということで書いていただいているんですけども、「不便」、「地味」そして「暮らしやすい」とあるんですね。すごく「不便」というのを「暮らしやすい」というのは対局にあるのではないかと思うんですけども、かなり高い確率で県内の高校生、大学生、高等専門学校生の方が答えているんですね。その対極にあるこのことが徳島の魅力の一つではないかと思っております。

私もその一人で、県外に出ましたけれども、やはり徳島に帰ってきたいという思いがありまして、いま徳島で暮らしております。こういう具体的に申す事はできないのですが、このような徳島の魅力の一つ、この骨子案にも反映されているように私も注目していきたいと思っております。以上です。

(近藤会長)

ありがとうございました。

若者クリエイト部会はすごくエネルギーを使って、資料を作っていただいて議論をしていただいたと伺っております。気になるところでございますので、事務局、いかがでしょうか。若者クリエイト部会のメンバーからもそういう話を伺ったことがあるんです。お願いします。

(事務局)

どうもありがとうございます。

クリエイト部会につきましては近森委員をはじめまして、大変ご苦勞をいただきまして本当に感謝いたしております。

いただいた報告書は、まだ今日お示ししているのは骨子案ということでフレームみたいな形になっておりまして、なかなか、ここがこうという形にはなっていないところでございます。かなり突っ込ん

で斬新なものをいただいておりますので、今後の素案、また最終案に向けまして、特に今後4年間の施策なども打ち出して参りますので、当然この中から、今どれがということはございませんけれども、具体的な施策、或いは思いですとか方向性につきまして、反映できるものはしっかり反映してクリエイト部会の方も、7月以降まだ開催ができておりませんが、フィードバックといいますか、お返しする場を設けたいと考えておるところでございますので、よろしくお願いいたします。

(近藤会長)

ありがとうございました。

それから2点目も面白いですね。便利になれば暮らしにくくなるかもしれませんね。不便だから人の繋がりが深くて暮らしやすいという、ここをまたデータを集計したばかりだと伺っておりますので、考察して次に生かしていただけたらと思います。

はい、ありがとうございました。その他ありましたらお願いします。

はい、どうぞ。清田委員お願いします。

(清田委員)

今後、世界の人口が95億人を突破とありますが、それはアジア・アフリカを中心というお話でしたが、そのころ日本の人口は1億人を割り込んでいると聞いております。超高齢化が駆け足できているというふうに感じております。

それで2050年頃の姿で、「笑顔のTOKUSHIMA」なんですけれども、子どもたちの笑顔が地域にあふれるような、そういう施策をしていかなければいけないと、私も感じております。

テレビで見たんですけれども、保育所が家の近所にあると子どもの声が喧しいとかうるさいとか、そういう報道がされていました。地域と保育所が揉めて、新しく保育所が建つのに反対の声が上がったりしているという報道を見たんですけど、やはり子どもの笑顔があふれるような、そんな徳島にしていかなければ、地震とか津波とかが来ると思うんですけど、それより先に徳島の方が滅びてしまうんじゃないかと思うし、女性の活躍の場も一歩踏み出すのにストップをかけてしまうんじゃないかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(近藤会長)

ありがとうございました。

これから検討していく上で参考にさせていただきたいと思います。

はい、どうぞ。その他ございましたらお願いします。

それでは、川眞田委員お願いします。

(川眞田委員)

新町川を守る会の川眞田です。

「v s 東京」についてちょっとお伺いしたいのですが、YouTubeに上がっていた動画の方も全部拝見したんですが、これまで徳島県が出されてきたいろんなビジュアルの中で一番すごく現代的というか、エッジが効いてて綺麗だなと思いました。コンセプトとかもよく分かりますし、県外に行っている県内の出身の友達からも連絡がくるぐらい、いろんな注目が集まっているのかなと思うのですが、今後の「v s 東京」の展開というか、この出来上がったコンセプトを具体的にどういう風に進めていけるのかなというところがすごく気になっています。結構大風呂敷を広げている感がすごくあって、それはすごくいい意味で思っているのですが、実際に徳島県内の中に居る人の中で「v s 東京」というのを、自分の中で自分のこととして意識している県民ってどのくらいいるのかというのも、私も体感している範囲では疑問に思うところもあります。ただ進んでいくと感覚が分かって自分もそういう気持ちが芽生えてきたり、後に追隨していけるものだと思うので、今後の展開がすごく気になっているのですが、その辺りを、もし可能であればお伺いできればと思います。

(近藤会長)

ありがとうございます。これは質問でございますので、お願いします。

(政策創造部)

政策創造部副部長の吉田でございます。

「v s 東京」という考え方なんですけれども、これは先ほどもお話がありましたように、東京と対比させることによって、徳島の強みとか魅力を再発見していくという取り組みでございます。

具体的にどうやっていくのかということなんですけれども、例えばVTRの中にもありましたけれども、伝統の話ですとか、ICTの基盤とかそういった強みを一つひとつ見つけていくことによって、先ず県庁の職員一人ひとりが自分の言葉で徳島の強みというのを語れるようにしていくと。

そういった意識で徳島の魅力を再発見した上で、それぞれの自分の所管なり担当の範囲内で、こういった部分が徳島の強みかということをしきりと認識して、そういった上で一つひとつの自分の施策にそういった考え方を具体化していくというような取り組みを、今後進めていきたいというふうに考えております。

ですので、「v s 東京」ということで、動画に出ているものとか、最近出ている物だけで終わることではなくて、そういった意識で今後徳島の各施策に取り組んでいくというような決意表明的な側面もございますので、今後「v s 東京」に基づく施策というのは一つひとつ具体化していきたいというふうに考えております。

(近藤会長)

はい、よろしいでしょうか。

かなりこれはインパクトがあったと思うのですが、それを浸透させるのには、時間がかかると思いますが、いま言われたようなことを地道にやっていただいたら、はい、どうぞ。

(川眞田委員)

ちょっと話が逸れるんですけど、このビジュアルを作ってくれた方、ディレクターさんがいらっしゃると思うんですが、徳島県のコンセプトに合うデザインとかコンセプトを設定してくださる方をたくさん探されたと思うんですけど、このデザイナーさんというか、ディレクションされた方を選出された意図というか、ここが良かったので徳島県のPRにこの人の力を借りようと思ったみたいなものが何かあれば。

(政策創造部)

コンペをしているんですけども、ディレクターさんは徳島の神山町の方にサテライトオフィスということで東京で会社を興されているんですけども、徳島のICTの良さという、それから自然環境の良さという所を大変気に入られて徳島にサテライトオフィスも出されました。

そういったことから非常に徳島の魅力というか、良さというのをご自身で肌で体感されて、その上で徳島の県庁若手職員とも十分に議論をした中でこういった新しいコンセプトというのを出されて参りました。

そういったことで特にプロの方なんですけれども、ご自身も肌で徳島の良さというのを体感され、その中で何カ月も議論を重ねた上でコンセプトを出されたということで、非常に自信を持って出せたのではないかとこのように考えております。

(近藤会長)

はい、どうぞ。

(飯泉知事)

先ず今回重要なのは、先ず若手が1月に集まって、これは徳島の県庁の若手、どちらかというと40までの職員を主軸に、つまり今回のコンセプトと同じ2050年を俯瞰をしていくということになりますと、その時、中核を担っていく皆さん方、或いはその近い人たちの意見を汲もうということになったんですね。

ただこれだけだと徳島だけの目になってしまうので、最初から「v s 東京」があったわけではないんですけども、やっぱり東京と対比をして考える。なにせ、東京が「ガリバー東京」ですからね。

いまコンペということもあったんですけど、そうした中で当然東京の目も持つということも重要な話。いま説明があったように、この会社というのは東京に会社があった。ご本人も東京出身ということで、しかし徳島を気に入って神山に来てくれて、ますます徳島が好きになっちゃったということで、例えば具体的に申し上げると、「八重の桜」というNHKの大河ドラマがありましたよね。あのタイトルバックを請け負ったところなんです。会津若松ですずっとやっていた。途中から藍染めに切り替わるんです。

それはなぜかという徳島に来て藍染めがものすごく気に入っちゃったんです。「これだよー！」ということで、藍がめからはじまって、多くの布が棚引くところがあるんですが、あれは全部藍です。ということで、東京の目でありながら徳島ファンになって、この人は世界的にも活躍するデザイナーでもありまして、そういう形で今回これができてきたということなんです。

最終的には、私のところに良案が出てきて決めたことになるんですが、多くの人は勘違いしていて、「どうせこんな『v s 東京』みたいな尖がって変わったものというのは、飯泉知事が考えたんとかやうん？」と。若い子たちとその東京の目、そして徳島の気に入った、その人たちのコラボで出てきたんですね。

(近藤会長)

よろしいでしょうか。

綿谷委員、今の関連でお願いします。

(綿谷委員)

こよなく徳島を愛している綿谷です。

一番最後の感想で言おうと思ったんですけど、すだち君のメールであり、すだち君のホームページは素晴らしいと思います。

夫にもインターネットのパソコン上から流しても知らなかったというから、「あんた、愛しとらんのじゃ。」と言ったぐらいなんですけれども、素晴らしい映像なり歌詞なり、特に好きなのは、スダチ君の2つ曲があって、「進め進め」というのと、2番目のバラード風の歌詞の中に、本当に徳島の良さと思いが詰まっておりますので、ここにおいでる方は、ダンスと歌を覚えてくださいますかと、最後に言おうと思いました。

私はよく東京とか関東に行くのですが、やっぱり行政なりそれぞれの団体が地道に努力しているのを、この間、徳新ですか、6次産業化は中途課程であるというところを読まれたと思うんですが、是非そういうふうな、県民にも東京にもそういう徳島の良さ、頑張っている姿というのを行政側と産業側と全部が力を合わせて、特に行政側はお金の面でバックアップして下さったらいいなと思います。感想です。

(近藤会長)

ありがとうございました。

すだち君の歌は庁内流れてますよね。ダンスもされているんですか。

(飯泉知事)

流れています。ダンスもやってます。

(綿谷委員)

知事さんも踊っておられます。

(飯泉知事)

私も踊ってます。

(近藤会長)

そうやって広がって行きますので。

では、山中委員、お願いします。

(山中委員)

あまり宣伝は嫌いなんですけど、今日は私のやっていることを紹介します。

実は近藤先生と一緒にやっている研究会で、元々は津波防災で次の世代の若者たちをどういったところに住まわせるのがいいのかというのをずっと今、実は美波町のエリアでやってますし、或いは徳島の都市圏の中でもどういうところに、次の世代が住んでいくのが安全で、かつ、町として望ましいのかというのを研究しています。

実はそれはいろいろ分析はしているのですが、その中で出てきたのが、副会長に座っておられる金先生がやっておられる「近居」という話でして、家族と近くに住んで助け合って暮らしていくという姿が実は日本の中になんて根付いていて、データでは3割から4割ぐらいの人が、特に子育て世代の5割近くが家族の近くに住んでおられる。15分から30分ぐらいのところに住んでおられて、助け合って暮らしておられるという姿が、実は都市計画や住宅政策や様々なところですっかり忘れられているということなんです。そういう話を伺いました。

その中で我々としては次の世代、つまり30代、40代、これから家を建てよう、これから子どもを作ろう、育てていこう、こういう人たちがどんな住まい方をしているのかということ、いまいろいろ研究しています。

実はたまたま、串本という町がありますけれども、あそこは津波にやられるのですが、サンゴ台というちょっと高台を、たまたま区画整理で作ったんですね。そこにそういう人たちがいっぱい住んでまして、100世帯ぐらい住んでまして、この間アンケートが出てきたんですけれども、やっぱりそういう世代の人たちが県外からも帰って来て、浸水エリアに親の人たちが居られるのですけれども、上に新しく住まれて助け合って暮らしている。もし津波が来たら当然助け合えるし、避難場所にもなるよみたいな話で安心して暮らせるような町になりましたよ。みたいな話が出てきました。

こんなふうに、次の世代の時、この若者の時には、是非、30代、40代、この人たちをもう少しターゲットに当てていただきたいなと思っているんです。

今回「若者」というキーワードでいろいろ出していただいて大変ありがたいのですが、高校生、大学生も非常に重要なんですけれども、できれば今から仕事を本当にやろう、家族を持とう、それから家を建てよう、こういう人たちの調査を是非ともやっていただきたい。しかも、県外におられる方々、実はうちの大学の卒業生なんかでも、3人目の子どもができたのでやっぱり親の元に帰りたいので、「先生、徳島で仕事ありませんか？」みたいな電話が掛かってくるようになりました。

というふうに、東京に行っている連中ももう戻りたいというのも結構いまして、こういう世代に是非、徳島にどんなものがあれば帰ってこれるのか、どうしたら帰ってこれるのか、或いはどうやっていくのが徳島として一番魅力があるのか、この辺の意見を聞いていただいて、この「v s 東京」を具体化する施策のアイデアを引き出していただければと思っています。

是非その辺の調査をお願いしたいということで、宣伝方々、よろしくお願いします。

(近藤会長)

ありがとうございました。

いま、山中先生からありましたように、次の世代を引き継いでいくという意味からすると、この辺の世代というのはすごく大事だと思いますので、まだ時間的に余裕がありましたら、是非お願いしたいと思います。

はい、日下委員お願いします。

(日下委員)

宿泊者数の増員の要因として、資料からですが、「マチ★アソビ」、「とくしまマラソン」の影響が非常に大きいのではと、確かに私もそう思います。具体的にこれが将来的にずっと続いて行く見通しがあると思うんですけれども、数字として「とくしまマラソン」、それから「マチ★アソビ」でどれだけ宿泊者数が増えたのかというのは、分かりますでしょうか。

2点目として、自由な働き方を一般化する。もちろん、将来を見越して非常に大切な要素を思うんですけれども、その上にありますような、100以上の企業の立地ということで、これから企業立地と

してどれだけの見通しが考えられるのかということを、ちょっとご説明していただきたい。

最後ですが、開かれた教育のところで、「海の里山、山の里山の地域資源で地域の自立を促進する」と。現実に三好市辺りではそういうことも現実に行われているんですけども、海陽町の方でも行われていると思うんですけども、これも数値的に分かる範囲で構いませんので、現況はこうで、将来はこの方向に増やしたいということを教えてくださいできればありがたいと思います。以上です。

(近藤会長)

ありがとうございました。

3つ質問がありましたが、最後は難しいかもしれませんが、将来の計画の範囲なので。答えられる範囲で、順番に「マチ★アソビ」、「とくしまマラソン」の効果のところからお願いします。

効果というのは、何人来たとか、何人宿泊があったとか、お願いします。

(商工労働部)

商工労働部です。

先ずお尋ねの宿泊者数につきましては、平成25年で226万人ということで、伸び率にして全国3位ということで大幅な伸びを示しております。それから、アニメのまちづくり「マチ★アソビ」でございますけれども、春のイベントでございまして、延べ3日間で7万人の宿泊者ということで、これも相当の伸びを示しているという状況でございます。

「とくしまマラソン」につきましては、出走者で1万人を超えておりまして、順次最初の段階から7回目を迎えまして、1万人を超えるところまで行っております。先の県議会でもご答弁させていただきましたが、近い将来的には2万人に向けてということで検討をいたしておりますので、コースの設定とかそういうのに向けまして、県外の方、県内の方を含めまして1万人ということでもかなりの方が抽選に漏れますというか、走れないというお声もいただいておりますので、そういうところで行っているところでございます。

それから2点目でございます、企業誘致につきましてでございます。企業誘致につきましては、県の工業用地につきましては、昨年、西長峰工業団地を分譲いたしまして、持っている工業団地につきましては、県立としては今は完売している状況でございます。

現在、徳島県の豊富なICT或いはブロードバンド環境を活用いたしまして、神山、三好、或いは美波町をはじめとするサテライトオフィス等を含めまして、企業誘致を進めているところでございまして、それを積極的に進めたいと考えているところでございます。

(近藤会長)

よろしいでしょうか。

里山の話は将来の見通しですので。

(日下委員)

あと1点、今年はお米の値段が非常に安かったと。農家も困っていると。実はうちも土地を、田を貸しているのですが、だんだんと費用も払えないのでタダにしてくれと。そういう現状なんですけれども、それに対して飼料になるお米があると、ニュースで、県の方もいろいろ努力をするというお話をしておりましたが、他に農家が再生する作物があったら教えてほしいと思います。以上です。

(近藤会長)

農業政策に対する話ですが、何かございますか、これからの計画。

(農林水産部)

農林水産部でございます。

ただ今米価の下落に伴う飼料米の話がでてまいりましたけれども、県の方でも非常に余剰米がでていくということで、一説には200万トン程度でているということで、そういったものに対して、米価が下がっている、それに対する対応策を4つほど考えているところでございます。

先ほどお話がありましたような飼料用米、これを積極的にもらっていく。10a当たり数万円の、一番大きい金額では13万5千円までのお金がでるということで、これは来年度以降になってまいりますけれども、飼料用米の作付を増やしていこうということが1点。

それから、水稻より高価で売れます園芸作物なんかに取り組むと。例えば水稻なんかですと、これは夏の作物ですので、その裏作として秋・冬の作物。一番有名なのは、ニンジン。春・夏野菜として有名なのはニンジンでございますけれども、そういったものを組み合わせしていくような形で農家収入を増やしていく。

それから水田農業の経営安定対策、これはあまり長期の話ではございませんけれども、国の収入補てん対策というのがございまして、収入減少対策の補助金的なものを、一時的に入っておれば補てんしていただけるような制度がございます。こういうものに入ることを推進したい。

さらにはコメの消費、これは当然人口が減る中で減っていく傾向にはございますけれども、コメの消費の喚起、例えばコメだけではなくて、米粉をパンに使うとか、そういったものについての、コメ需要についての喚起。それからそれだけではなくて、最近では、徳島県でもコメの輸出、昨年度からイギリスなんかにも輸出して好評で今年もしたところでございます。そういった輸出対策もやっていこうと。

さらには、これも今年度から農地の中間管理機構というのができたんでございますけれども、農地をある一定に拡大していく、それによって効率的な米作を行っていこうというふうな施策も国の方が

今年度から進めておりますので、いま現在マッチングを行って拡大を進めていこうと、こういった4つの対策を進めているところでございます。以上でございます。

(近藤会長)

ありがとうございました。

それでは続いて、高橋委員、お願いします。

(高橋委員)

四国大学の高橋と申します。よろしくお願いします。

感想になるかと思うんですけれども、今回提出していただいている、徳島県に関する高校生、大学生のアンケートを興味深く拝見させていただきました。徳島県に定住したいという若い人たちというのが、すごく少ないというのはちょっと残念に思ったのですが、やはり都会に興味があるからと一端出て行って、帰ってくるというふうな構造をしっかりとしてほしいと思うんですけれども、私の息子も東京に行って、そのまま結婚して帰って来てないのでこんなことを言えないのですが、しかし、やはり徳島に帰ってくる魅力って何なのかということですね。徳島に住むという魅力。

このアンケートを見ますと、定住したいという理由は人の繋がりであったり、自然であったりという、そういうふうなすごくほのぼのとしたところを魅力と感じている、それから不便と感じているようなところというのは、商業施設とかそういうのが少ないということを感じているということが、はっきり出てきていると思います。

やはり、本当に住みたくなるまちづくりというのが重要だと思います。それから徳島の魅力ということで、我われが上手に若い人たちに徳島の魅力を伝えているのだろうか、もっと「徳島ってこんなところがいいんだよ」と、いうことをもっと伝えたいなというふうに思いました。

私自身も徳島ってこんなにいいところがあるよって、伝えたいんだけど、本当に阿波踊り、それから美味しい食べ物というぐらいで何だろうという、自分自身もなかなかそれを引き出せない状況です。ですから、もっと行政の方からも徳島ってこんな魅力があるということを、もっとPRしてほしいなというふうに感じました。

こういうふうに若い人たちが外に出て行って帰ってこない状況になってくると、人口ピラミッドを示されているように、65歳以上の人口が2040年には40%、そういうふうになってくると、やはり疾病構造も変わってきますし、だんだんと医療費の高騰であったりとかというふうな、福祉の面でもしわ寄せが来てしまうということがあって、やはり、若い人たちが元気に徳島で働ける、そして生活できるという風な、そこが一番重要な施策じゃないかなという風に感じております。

感想にとどまりますけれども、以上です。

(近藤会長)

意見をありがとうございました。

それでは、松崎委員、お願いします。

(松崎委員)

子育て支援ネットワークの松崎です。

資料2の新たな総合計画「中期プラン編」ですが、「子どもたちの笑顔が地域にあふれている」と書いているんですが、子育てしているママ・パパが笑顔でなければ子どもたちが笑顔にならないので、本当は「子どもたちや子育て世代、若しくは子育てファミリーが笑顔があふれている」と、そういうふうに書いていただけたらありがたいかなと思っております。

子育て支援ですけれども、いま子育て支援制度で認定こども園を作ろうということで、認定こども園は保育所と幼稚園とそれから子育て支援の機能を持つということで、県内でも随分増えているのですけれども、吉野川市のように、合併になった後、川島庁舎全体を子育て支援にされたという事例があって、先ず子育て支援が3階にあって、1階が行政の窓口で、保健師さんとか子育て相談員さんがいらっしやって、子育て支援課が1階にあった時がありました。

今年度からは認定こども園になって、行政の方の業務が鴨島の本庁に移って、川島庁舎の3階ちびっこドームというのが元々あったところの下に、幼稚園と保育所ができて、全館が川島認定こども園になった成功事例があります。

実際のところ保育所の中で、幼保が一緒になって認定こども園をどんどん作られているところが、それまでは古い保育所の建物内で、子育て支援が充実しているにも関わらず認定こども園になったことによって、子育て支援の部屋が縮小になっているのが現実としてあります。

私も今日、阿南の平島子どもセンターで、子育て防災講座の講義をさせてもらってきたんですけれども、子育て支援センターの部屋が平島子どもセンターが確か、今津と平島というのが、徳島で最初に認定子ども園になったところなんですけど、確か部屋が広がったはずなのに、どうして部屋が狭くなっているのかなと、ちょっと気が付かなかったのですが、やっぱり通常の子どもたちの人数が増えたために、広がった子育て支援の部屋から小さな部屋に子育て支援が移っているのが現状です。

もちろん、保育園、幼稚園の子どもたちが通常通っている働くご家庭の支援ということで、そちらも大事ではあるんですけれども、認定こども園になることによって、子育て支援が縮小になっているというのが現実として現場にあるというのは聞いておりますので、子育て支援が進む中で、認定こども園の数が増えるから、子育て支援も増えているというのではなくて、その辺りもよりきめ細やかな支援ができるようにということで子育て支援にも力を入れるように、ここに書いてはいただいているんですけれども、現場の声をきいていただけたらと思います。

実際に子育て支援担当の先生がいらっしやるんですけれども、いつもいらっしやらない場合があります。

ます。なぜかという、保育の現場に手伝いに入っているわけなんです。ということは、どことも一緒なんです、保育士が不足しているという状況が園長先生から悩みの声としてあります。

子育て支援の先生は子育て支援に配置しておきたいのだけれども、やっぱり通常の子ども達の方でとても保育士さんが足りないという状況があります。

直接この議案と関係なかったらすみません。私たちはシルバー人材センター連合会の方で委託されて5年前から55歳以上の方を対象に育児支援サービス講習会、若しくは福祉サービス講習会といって、毎日7日間講座、若しくは8日間講座をしています。

その修了したシニア世代の方が子育て支援を頑張るんだと思っても、その方たちの活躍の場があまりないんです。ファミリーサポートセンターに登録しても、年配の方にはなかなか依頼が来ないということで、登録しているけど、登録した意味がないということもおっしゃるし、若しくは保育士の免許を持ってなくても、仕事ができるんだぞというような、子育て支援の仕事ができたらと思ってらっしゃったんですが、例えば助任保育園のように、私立の場合は保育士の免許がなくても、そういう勉強の場を持ってらっしゃる方、シニア世代の知識や経験が豊富であって、若しくは子育ての知恵の伝達ということで、早朝の子どもさんのお手伝い、お迎えのお手伝いということで、シニア世代の方を雇用してくださったんです。パートなんですけど。それ以外の公立の保育所の先生たちは、「本当に松崎さん、子育て支援に力を入れたいけど、保育士が足りないんだ。だからそういうシニア世代の方が、そういう勉強をされた方が仕事やボランティアの場が無くて困ってらっしゃるのであれば、その方たちを雇用してもらえるように、松崎さんから行政に言ってほしい。」と言って、全然違う所でも、阿南でも言われたし、実は他のところでも言われて、でも、本当にシニア世代の方が子どもや赤ちゃんと、老人ホームとかで一緒にするとか、それはただ見るだけでなく、シニア世代の方の本当の子育ての知恵の伝達ができる、まだまだ元気な方の子育て経験、知恵を活かして雇用、若しくはシニア子育てサポーターの活躍の場を作ってもらったら、子育て支援ももっとより良くきめ細やかに進んでいくんじゃないかなと思います。

最後1点ですが、先ほどの「v s 東京」、私たちもいろいろ意見があるというのを新聞でも見ていたのですが、実際見てなくて、私たちが運営させてもらっているスキップでお母さんたちがスマホを見て、何人かのお母さんがワーワー、キャーキャー言いながら涙を流しているお母さんもいてまして、「松崎さん、v s 東京ですよ」って「あー」って、実際のところを見て無かったのですが、お母さんたちですごく話題になって、「すごく感動するでしょう、松崎さん見てみて」って。すごい誇れるし、たまたま阿波踊りをしている子どもさんの友達がオーストラリアに住んでいるので、オーストラリアの人たちにも連絡を取って見てもらったということで、すごい感動するものになっていて、お母さん世代が徳島に住んでて良かった。転勤して徳島に来て良かったです。阿波踊り、またぜひ楽しみたいと思いますという声が、随分転勤族ママの声がありました。

それからすだち君も正直、私ゆるキャラのグランプリ登録してなかったんですが、今年、本当に新

聞やマスコミやいろんなイベントで、フジグランでもこの間いて、前を素通りできなくて、県の方皆さんが頑張っていらっしゃるっていうその意気込みをすごく感じましたので、実際は面倒なんですよ、パスワードを入れたりとか、登録したいなと思っても、「まあいいか、まあいいか」と来て、上位に上がっていたのにまたちょっと下がってきて、何とかしたいと思っていたけど、「まあええか」と思っていたけど、フジグランで捕まってというか、私の方から行ったんですけど、行って登録の仕方を教えてくださいと行ったら、県の職員の方が全部私のスマホを触って登録の仕方を教えてくださいましたので、私も毎日投票もできたし、フェイスブックもできるだけ書き込みをしたり、県外の仲間にシェアをするように努力して、やはり県の方、職員の方の意気込みが私たち県民を楽しく頑張ろうという気持ちにもさせてくださったなあと思っていました。長くなりましたけど、以上です。

(近藤会長)

ありがとうございました。

前半の話は行動計画に結びついて行くような部分だったので、これはまた活かしていただきたいと思います。

後半の「v s 東京」は良かったですね。私もインパクトを感じましたけれども。これからも地道にやっていくということでしたが、特に県外から来た人に対してインパクトがあったということは、本当に大成功だと思います。

他にございましたら、どうぞお願いします。近藤委員。

(近藤(洋)委員)

近藤洋祐です。よろしくお願いします。

意見なんですけど、「v s 東京」、これ私も見させていただいたんですけど、資料の中に高校生とか大学生の徳島県へのイメージというアンケートの調査結果がでているんですけど、上位トップ5の結果というのがほぼ同じなんですよね。ほぼ同じで大学生がトップ5の合計が53%、高校生の合計が56.3%、ちょっと増えているんですよ。

これってやっぱりインターネットを中心にソーシャルメディアであつたりとか、いわゆるバイラルメディア、キュレーションメディアを通じて情報の共有が進んでいると思うんです。これは徳島県に対するイメージというのは、僕ら10代・20代世代というのは、固定化されつつあると思うんです。それに対して「v s 東京」というのは、非常に強烈なカンフル剤だったんじゃないかなと個人的に思います。ヤフーのトップニュースでも出ましたし、非常にインパクトが大きかったと思っております。

これは僕個人として、10代・20代の若者は、これを放置は非常に危険だと。やりっぱなしは非常に危険なのではないかなと思います。後、若者に対しての強烈な脅しになっていると思うんですよ。これを言ったからにはやらないといけないなと。行政の方々、向こう側がやっているけど、こっちは

知らないよというわけにはいかないと思うんです。これは強烈な脅しになっていると思います。非常に強烈なカンフル剤としてインターネットを中心に論争が巻き起こっていたと思います。

それで、参考資料5に書いてあるんですけど、「ストーリー “強敵を倒す” という物語は、誰にとっても理解し、応援したくなる物語構造です」と、書いてあるんですけど、正しくその通りで、これって何かというと、ベンチャースピリットを育てるような仕組みだと僕個人としては思うんですよね。

この10代・20代の社会人のプレイヤーというのは、やっぱり勉強を如何にしたかとか、身体能力を上げるために努力を如何にしたかという、努力の総量で社会で評価されるというのは、そもそも間違えて、やっぱり社会に出ていかにチャレンジしたかとか、泥臭い経験をして挑戦をし続けたことが、僕は社会人としてプレイヤーの価値を上げていると思うんですよね。

そういう意味ではこの「v s 東京」というのは、一種の煽りではなくて、そういう意味ではベンチャースピリットを後押しするような強烈なメッセージになっているんじゃないかなと思います。ここから意見ですが、長期的なビジョンを持って若者の育成というものに、これをつなげてほしいと思うんです。これはやっぱりやりっぱなしではなくて、長期的なビジョン、これを一つのブランドメッセージとして民間企業とタッグを組んで、全国に発信できるようなサービスであったり、商品であったりそういうものを開発できるような仕組みを今後長期的に、是非考えていただきたいなと思います。以上です。

(近藤会長)

ありがとうございました。

最後、民間企業というのは、そういうのはいいと思いますね。行政は大変ですので、一緒にやっていただきたいと思います。

はい、他にいかがでしょうか。

金先生、お願いします。

(金副会長)

こちらに座っていると、なかなか発言し辛いんですけど、今日は新たな総合計画の「長期ビジョン」と「中期プラン」の骨子案について話す、そういう会だと思います。この「長期ビジョン」と「中期プラン」、それから国の「まち・ひと・しごと創生法案」と「v s 東京」という、4つでしょうか。3つと言ってもいいんでしょうけど。そこに共通するコンセプトは同じ、一つなんですね。つまり、徳島らしさを如何に打ち出し、作り出して、それをアピールするかということに繋がるものだと思います。

そういう観点から見た時に、国の政策から考えますと、つまり徳島の「ひと」、徳島の「まち」、

それから徳島の「しごと」でいかに徳島らしさを全面に出して作るか。我われは都市の縮小版、ミニ版、そういう徳島を作るのではない。これから日本の将来を考える時に、地方が元気じゃないと危険であるという、危機意識から国の法案が出てきたと思うんですけれども、その中で徳島としての「まち・ひと・しごと」を如何に創生できるかという観点から、この「長期ビジョン」と「中期プラン」の中に、国の法案、「v s 東京」のコンセプトをつなげて、共通するものを作り出さないといけない。この「長期ビジョン」と「中期プラン」が、国の「まち・ひと・しごと創生法案」をどのくらい意識して作っているのか、言葉を作り出しているのかということをもう一度検討する必要があるのではないかと思います。

例えば「中期プラン」の中の「世界への発信」、これはどちらかというと、思いやりとか支え合い、人情溢れる人間、つまり「ひと」づくりなんです。「世界に誇る『強靱なTOKUSHIMA』」はどちらかと言えば「まち」ですよね。「世界とつながる『創造のTOKUSHIMA』」というのは、「しごと」なんです。この「しごと」の部分は少しインパクトが弱い部分もあるかなと。中期プランを見た時に、アピール材としてこれが充分であるかどうかというところ、つまり、「ひと」があって、「まち」があって、しかしそこに「しごと」がなければ人が住み続けることができないし、人を呼び寄せることができないわけなんです。

だからその辺で、「しごと」の創生という部分を如何にこれから作り出すのかということも大きな課題かなという気がします。

それから、「ひと」なんです。県内の若者のアンケート調査結果を見ますと、「将来希望する仕事について」「わからない」という答えが、高校生で15%、大学生・高専学生で10.6%ぐらいあったんでしょうか。

高校生ぐらいだったら、将来どういう仕事に就くのかということに関する展望がないと、ビジョンがないといけないのですけれども、大学生の場合も10.6%ぐらいの人が将来の展望を持っていないという現状からすると、キャリア教育、職業理解教育、体験という、そういう教育が非常に重要と思いますし、それから国の法案にもありましたように、生涯設計教育、国際理解教育、人権教育とか、環境教育、それから郷土愛を育む郷土教育とか、こういうことにもっと徳島として力を入れるべきではないかと。

徳島らしさを如何に打ち出すかということで、我われは徳島で生まれ育って、外に出た場合、原風景として徳島の原風景を持って出ていくわけで、その原風景というものをいかに持つか、持たせるかということが、将来その人たちが帰ってくるかどうかに関わってくると思うんです。

原風景としての「まち・ひと・しごと」という部分を如何に作り出していくかが、大きな課題ではないかなと思います。以上です。

(近藤会長)

ありがとうございました。

皆さままだまだ意見があろうかと思いますが、だいたい予定していました時間が来ましたのでこれで意見交換を終わりたいと思います。今日は議題が「新たな総合計画の『長期ビジョン』と『中期プラン』」ということで、しかも骨子が示されて、それに対するご意見を伺っているわけで、なかなかご意見を出すのが難しいところがあったと思いますが、たくさんのご意見をいただきました。

最初、岡田委員から計画づくりはポジティブという姿勢が大事ですよということ。それから久米委員からは、政策のベースになる理念をしっかりと書いて欲しいという、計画をする時の姿勢とか心に関することをいただいて、また最後に、金副会長から国の政策との関連を見ながら徳島らしさを出して行くというそのコンセプトのこと。

最初と最後で一番計画づくりの根底となる、計画の心と言ったら表現がおかしいかもしれませんが、そういうところで、ご意見をいただきました。

間で長期ビジョン、それから中期プランに関するご意見を様々ないただきました。ありがとうございました。それで、中にはこれからの行動計画に反映していけるご意見もたくさんありましたし、現状の行政に関する意見もありました。本当に皆さんありがとうございました。

大都市以外どの地域でも同じですが、人口問題がこれからの大きな課題だと思います。私も人口の研究を大分していますが、なかなか政策で人口を動かそうとしても難しいところがありまして、後、マーケットメカニズムとの対抗でうまくいくかなと。やっぱり人の価値観とか、大きな潮目みたいなものがありますので、今はチャンスかなという気がしています。ここで少し長期的に考えていい徳島を作っていくために、人口のことも議論して政策で上手くいくかどうか分かりませんが、提案していくチャンスかなと思っていますので、皆さん、またご意見をお願いしたいと思います。

それでは、これで意見交換を終わらして、後、連絡事項が事務局からありますので、お願いしたいと思います。

今日もたくさんのご意見やご提言をいただきました。今日は、骨子案に関する審議でしたが、これから素案づくりや行動計画づくりを行っていきます。事務局には、その過程で、本日委員の皆さんからいただいたご意見ご提言を反映していただきますようお願いいたします。

2 事務局説明

本日の会議録の公表については、事務局でとりまとめた上、発言された委員に確認いただいてから、発言者名も入れた形で公開したい。

今後のスケジュールについては、次回開催予定は来年度に入り4月頃を予定している。委員各位には忙しい中、何かと協力をいただくことになると思うがよろしくをお願いしたい。開催日については、まだかなり時間もあるが、近藤会長と相談の上連絡をさせていただきたい。

(以上)